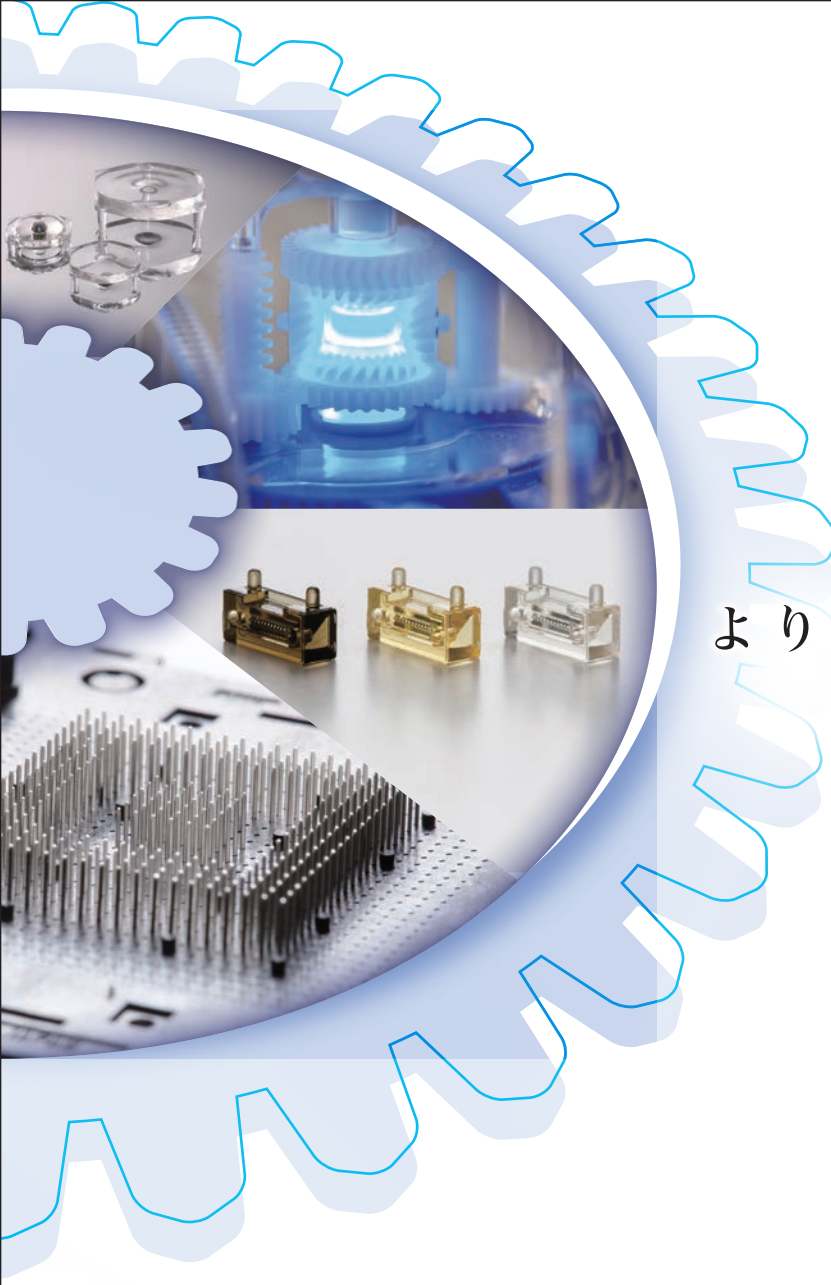


株式会社エンプラス

(証券コード:6961)



よりよき明日を目指して

2020年3月期(第59期) 中間報告書  
2019年4月1日から2019年9月30日まで

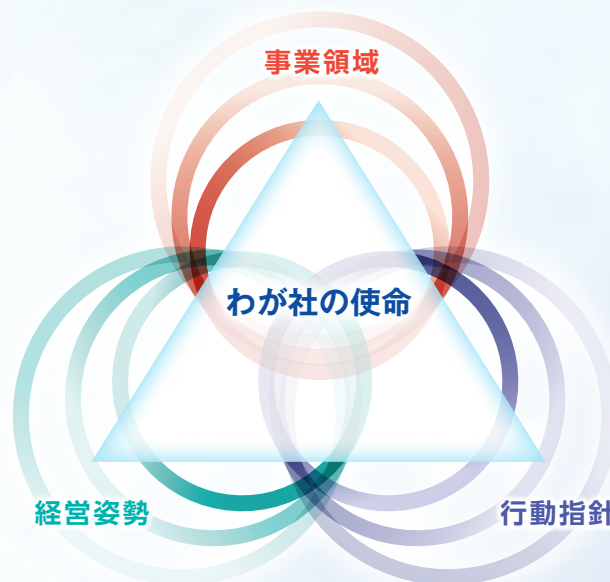
**enplas**



株式会社エンプラス

## Contents

- 01. 企業理念
- 02. 株主の皆様へ
- 04. 連結業績の推移
- 05. 事業別概況
- 07. EnplasのPolicy
- 08. 連結財務の状況
- 09. 会社概要/株式情報/株主メモ
- 10. グローバルネットワーク 国内ネットワーク
- 巻末. グローバルネットワーク 海外ネットワーク



### わが社の使命

信頼の絆をもとに、あらゆる変化に対応する強靱な経営基盤を堅持し、

1. お客さまに感謝される製品とサービスを提供します。
2. 能力と成果を公正に評価し、社員の生きがいを育みます。
3. 株主の皆さまの期待に応え、企業価値の向上を目指します。

これらの実践を通して豊かな社会の発展に貢献します。

### 事業領域

エンジニアリングプラスチックで培った先進技術をもとに、さらに最先端技術を追求し、創造的価値を世界市場に提供します。

### 経営姿勢

1. 卓越した技術と信頼される製品により、競争力と成長力を追求します。
2. 健全な財務体質により着実な発展を図ります。
3. 全ての企業活動において確かな品質に責任を持ちます。

### 行動指針

1. 創造的な目標を掲げ、情熱を持って挑戦します。
2. 感謝の心と学ぶ姿勢を大切にします。
3. 公私を明確にし、公明正大に行動します。



## 株主の皆様へ

当社は、創業以来培ってきたエンジニアリングプラスチック総合技術のさらなる先進化と活用により、常に高精度、高機能、高品質を追求し、お客様に感謝されるより良い製品とサービスの提供を通して社会の発展に貢献してまいります。

代表取締役社長

横田大輔



### Q 上期の事業環境と経営実績についてお話しください。

上期における世界経済は、米国においては良好な雇用・金融環境を背景に個人消費は堅調に推移する一方で、製造業の景況感是一段と低下しました。中国においては、米国による関税引き上げの影響を受けて米国向け輸出は減少したものの、自動車生産やインフラ投資に持ち直しの兆しが見られます。新興国・地域では米中貿易摩擦などを背景に世界経済の減速感が強まる中で通貨安となり、また、輸出は引き続き低迷しました。わが国経済は、所得と個人消費の回復や、設備投資が増加基調にあるものの、先行き不透明感や消費税増税後の国内消費の落ち込みへの懸念から景気に足踏み感がみられます。また、米中貿易摩擦の激化や日韓の緊張の高まり、英国のEU離脱問題の継続など、当社を取り巻く環境は予断を許さない状況が続いております。

このような状況の中、エンプラ事業では、プリンター用

部品は、国内主要顧客からの受注が減少しました。また、その他エンプラ製品は顧客の生産調整などの影響を受け、低調に推移しました。

半導体機器事業では、米中貿易摩擦や韓国への輸出管理強化等の不透明要素が懸念されたものの、各種ICテスト用ソケット、バーンインソケットは、米国、中華圏における販売が引き続き好調に推移しました。

オプト事業では、光通信関連の光学デバイスは、市場の競争環境の変化により力強さを欠きました。LED用拡散レンズは、液晶テレビ市況の悪化と市場の競争の高まりを受けて受注が減少しました。



### Q 下期の取り組みについてお話しください。

当社グループでは、さらなる成長を目指すため、「現場を大切に、足元を固める」を第59期の経営基本方針としております。当社グループの事業分野であるエンプラ

# 株主の皆様へ

事業、半導体機器事業、オプト事業は日々新しい技術が生まれ、市場の変化が非常に激しい業界であります。

当社グループでは、世の中の変化に即応するため、既存事業の経営基盤をより強固なものにするとともに、新事業拡大に向けて注力することで、企業価値の向上を目指しております。

エンブラ事業では、プリンター用部品と自動車用部品につきましては、顧客製品の機能を高めるような技術的提案を通じて、さらなる顧客層の拡大と収益性の向上に努めてまいります。また、バイオ関連製品の早期事業化と、新事業創出に向けた活動に注力してまいります。

半導体機器事業は、少量多品種の傾向が強くなっていくと考えておりますので、効率的なものづくり基盤を確立するとともに、新ソリューションの開発に注力してまいります。

オプト事業は、競争環境が激化したことが影響し、売上が大きく減少しておりますが、安定した売上・収益基盤を構築するべく、お客様のニーズにマッチした製品の開発を行うとともに生産体制の最適化を進めてまいります。

## Q 株主還元についてお願いします。

当社は、健全・堅実な経営により強固な財務体質を堅持するとともに、経営活動の成果を明確な形で株主の皆様へ還元することを基本方針とし、また、安定的配当の考え方も取り入れ、今期以降の業績予想を勘案して、配当の決定を行っております。

また、当社では自己資本利益率(ROE)および1株当たり当期純利益(EPS)を事業活動の成果を示す重要な経営指標と位置づけており、その維持・向上を図るため自己

株式の取得も継続的に検討してまいります。内部留保しております資金は、経営基本方針に則り、今後の事業展開を踏まえ、中長期的展望に立って生産設備投資、研究開発投資、情報化投資や新事業創出のためのM&A資金などに積極的に振り向けるとともに、将来の収益力の向上を通じて株主の皆様へ還元できるものと考えております。なお、中間配当につきましては、1株当たり15円とさせていただきます。また、当期の期末配当金については1株当たり15円、通期で1株当たり30円を予定しております。

## Q 株主の皆様へ一言お願いします。

私たちは、創業以来培ってきた高精度・微細加工技術のもとに、当社にしか実現できない高付加価値製品の開発に挑戦し、お客様に感謝される製品・サービスを提供することで、豊かな社会の発展に貢献してまいりました。

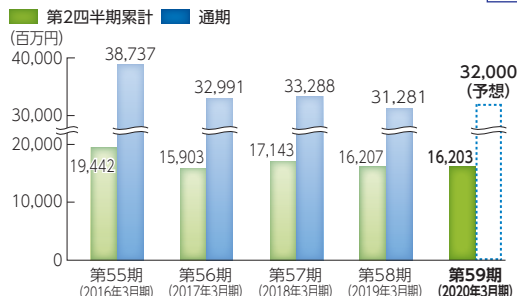
世界情勢は不透明感が増しておりますが、どのような時代であっても、お客様価値の向上に繋がるソリューションと、ニーズを先取りした製品の必要性は不変であると考えています。ゆえに、時代に先駆けて製品を開発し、量産技術を磨き、お客様に感謝される製品とサービスをスピーディに提供するという、当社のものづくりに対する姿勢もまた、変わることはありません。

当社は、このようなものづくり精神を基盤として、既存事業の成長はもとより、積極的な事業開発による新たな市場開拓の推進で、世界のあらゆる産業分野に活動の場を広げ、お客様の信頼に応えられる企業を目指してまいります。

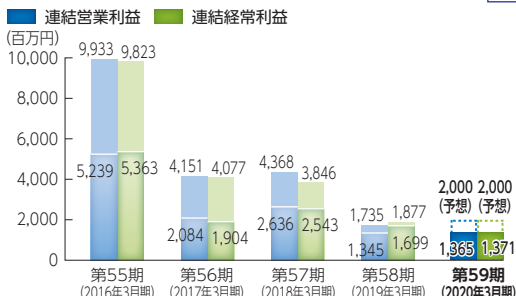
今後とも、株主の皆様にはより一層のご支援とご鞭撻を賜ります様、よろしくごお願い申し上げます。

# 連結業績の推移

## ■連結売上高 1



## ■連結営業利益／連結経常利益 2



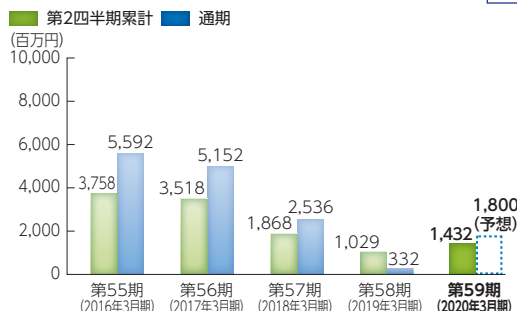
### ポイント 1

当第2四半期累計における連結売上高は16,203百万円(前年同期比0.0%減)となりました。

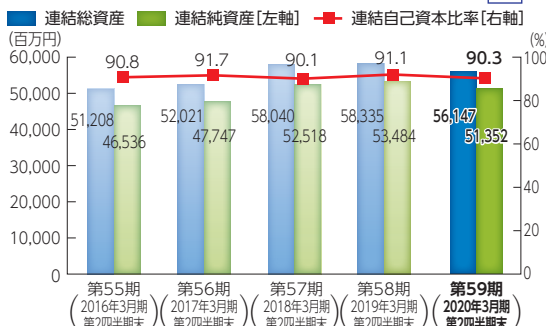
### ポイント 2

連結営業利益1,365百万円(前年同期比1.5%増)、連結経常利益は1,371百万円(前年同期比19.3%減)となりました。

## ■親会社株主に帰属する連結四半期(当期)純利益 3



## ■連結総資産／連結純資産／連結自己資本比率 4



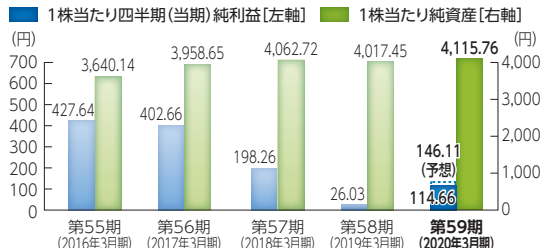
### ポイント 3

親会社株主に帰属する連結四半期純利益は1,432百万円(前年同期比39.1%増)となりました。

### ポイント 4

連結純資産は51,352百万円(前連結会計年度末比25.4百万円減)、自己資本比率は90.3%(前連結会計年度末比0.1ポイント減少)となりました。

## ■1株当たり四半期(当期)純利益／1株当たり純資産



## ■2020年3月期 通期予想

(単位:百万円)

| 科目                   | 2019年3月期 通期 | 2020年3月期 第2四半期累計 | 2020年3月期 通期(予想) |
|----------------------|-------------|------------------|-----------------|
| 売上高                  | 31,281      | 16,203           | 32,000          |
| 営業利益                 | 1,735       | 1,365            | 2,000           |
| 経常利益                 | 1,877       | 1,371            | 2,000           |
| 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 | 332         | 1,432            | 1,800           |
| 1株当たり四半期(当期)純利益(円)   | 26.03       | 114.66           | 146.11          |

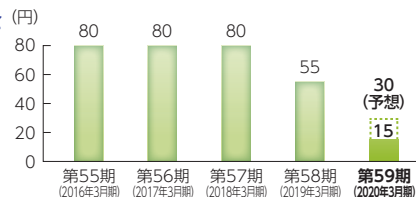
※業績予想や将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき合理的と判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内包されています。従いまして、実際の業績は見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。

## 株主還元について

### 1株当たり 配当金30円

当社では、経営活動の成果を明確な形で株主の皆様へ還元することを基本方針とし、また、安定的配当の考え方も取り入れ、今期以降の業績予想を勘案して、中間配当を含む年間配当は1株当たり30円を予定しております。

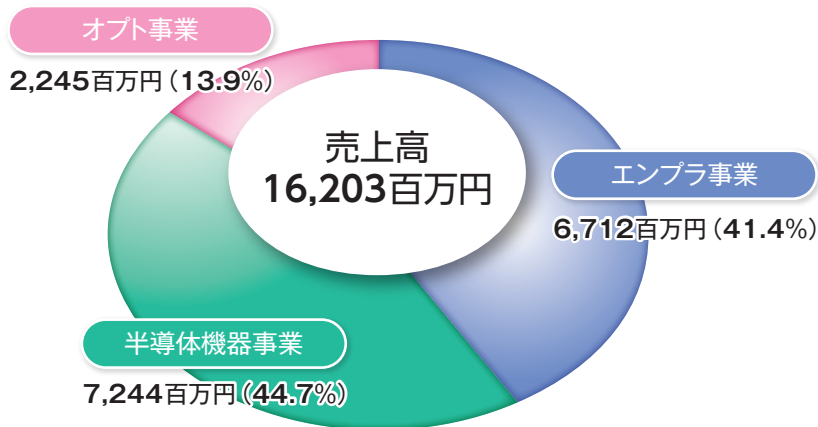
## ■配当金 (円)



# 事業別概況

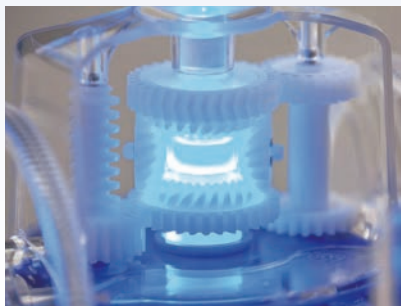
## 事業セグメント別売上高構成比 2020年3月期第2四半期累計 (2019年4月1日から2019年9月30日)

当社は創業以来、基幹事業としてエンプラ事業の高精度化・高機能化を進め、さらに、時代の変遷とともに、メカトロニクス領域からデジタル領域へと要素技術開発を展開し、半導体機器事業・オプト事業と事業領域の拡大を図ってまいりました。今後も世界のあらゆる産業分野に活動の場を広げていきたいと考えております。

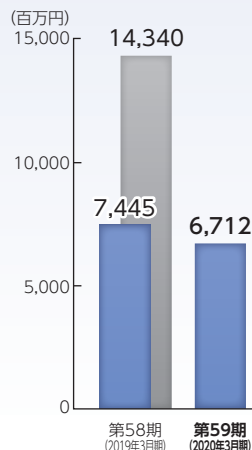


### エンプラ事業

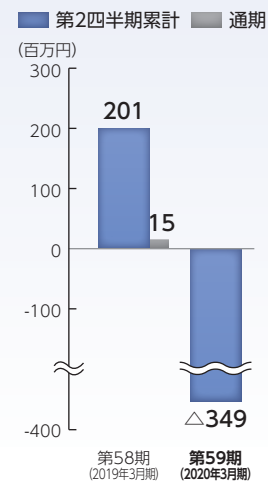
プリンター用部品は、国内主要顧客からの受注が減少しました。また、その他エンプラ製品は顧客の生産調整などの影響を受け、低調に推移しました。この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は6,712百万円(前年同期比9.8%減)、セグメント営業損失は349百万円(前年同期は201百万円のセグメント営業利益)となりました。



### ■ 売上高

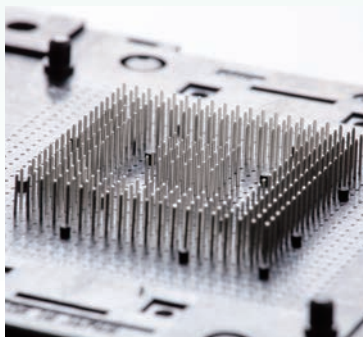


### ■ 営業利益

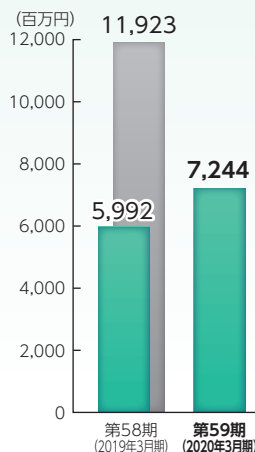


## 半導体機器事業

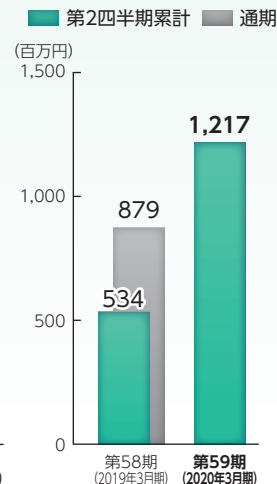
米中貿易摩擦や韓国への輸出管理強化等の不透明要素が懸念されたものの、各種ICテスト用ソケット、バーンインソケットは、米国、中華圏における販売が引き続き好調に推移しました。この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は7,244百万円（前年同期比20.9%増）、セグメント営業利益は1,217百万円（前年同期比127.9%増）となりました。



### ■ 売上高



### ■ 営業利益

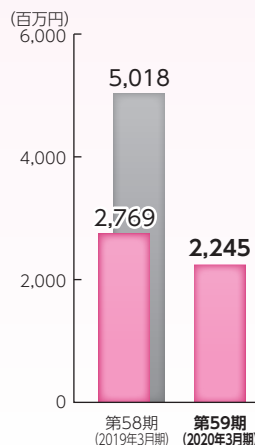


## オプト事業

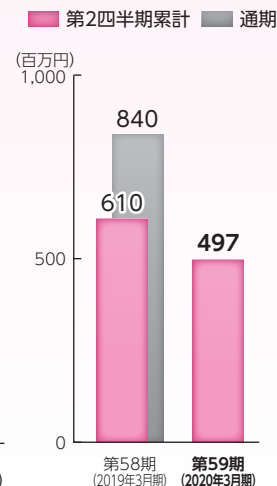
光通信関連の光学デバイスは、市場の競争環境の変化により力強さを欠きました。LED用拡散レンズは、液晶テレビ市況の悪化と市場の競争の高まりを受けて受注が減少しました。グローバル生産体制の見直しによる製造原価の低減はあったものの、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,245百万円（前年同期比18.9%減）、セグメント営業利益は497百万円（前年同期比18.5%減）となりました。



### ■ 売上高



### ■ 営業利益



## 品質方針

お客様に感謝されるより良い品質の製品とサービスを提供します。

- 1.エンプラスグループは世界の全ての拠点において共通の品質方針を掲げ活動しています。
- 2.エンプラスは世界の全ての拠点において、ISO9001を基本フレームとした共通の品質マネジメントシステムで品質保証活動を推進しています。
- 3.エンプラスは品質第一主義で、全ての事業活動において品質改善活動を展開し、お客様に安心して使用していただける製品を生産・供給していきます。
- 4.エンプラスは供給する全ての製品の品質について責任を負うべく、各々の生産拠点で対応するほか、全社を上げて対応できるよう、本社への情報集中機能と本社からの支援活動機能を準備しています。



ISO9001認証取得  
 【登録組織】株式会社エンプラス  
 【登録範囲】1.精密プラスチックギヤ、キャブレター用プラスチックフロート、プラスチックオプティクス、光学素子及びその他エンジニアリングプラスチック精密成形品の設計・開発、製造及び製造管理  
 2.ICソケット及びキャリアの設計・開発及び製造管理

## 環境活動 — 自らに厳しく。それが環境配慮への信念です。—

エンプラスは、環境マネジメントシステムに関するグローバルスタンダードであるISO14001の認証を取得することももちろんのこと、その規格に則って、環境マニュアルを作成し、比較的環境負荷の少ない地区においても「自己宣言」を行い、自らを厳しく律し、環境保全活動に取り組んでいます。

このような姿勢は、私たちの共有財産である環境の保全に対する意識を、より実質的かつ本質的に、企業として、個人として、高めようとするものでもあります。

さらに、積極的なエネルギーの節約と、環境に対する負荷の少ない製品の設計、製品の供給段階での負荷の減少、部材の効率的な活用、廃棄部材の削減など、製品の設計から製造におけるあらゆるプロセスにおいても環境へ配慮しています。

常に未来を見据えて技術の向上にもトータルに努めています。

### 環境方針

エンプラスは、エンジニアリングプラスチック及びその複合材による、高精度・高機能プラスチック精密機構部品・製品の開発、製造、販売に関わるあらゆる面で、地球環境の保全を企業の果たすべき重要な課題として捉え、その保護活動に積極的に取り組みます。

- 1.環境目標を設定し、それを達成するために全社的な環境管理システムを構築し、継続的な改善向上を図ります。
- 2.業務の合理化や改善等を通し、環境負荷の低減・省エネルギー（電力使用量等削減/CO<sub>2</sub>削減）を推進します。
- 3.廃プラスチックの削減と再資源化を推進します。
- 4.サプライヤーとの協働により調達品の環境負荷低減に努めます。
- 5.環境規制や環境協定等を順守します。
- 6.企業活動から汚染を排出しないようその予防に努めます。
- 7.社会の一員として、地域の環境保護や維持に貢献します。

ISO14001認証取得  
 【登録組織】株式会社エンプラス  
 鹿沼工場  
 【登録範囲】エンジニアリングプラスチック及びその複合材によるプラスチック精密機構部品・製品の開発、製造



ISO 14001  
 REGISTERED

### 《適用範囲》

| 組織の単位・物理的境界                                    | 区分                    | 適用範囲  |
|--|-----------------------|---|
| 工<br>株<br>式<br>会<br>社<br>エ<br>ン<br>プ<br>ラ<br>ス | グローバル本社               | エンジニアリングプラスチック及びその複合材によるプラスチック精密機構部品・製品の開発、製造 |
|  | 本社                    |   |
|  | 鹿沼工場                  |   |
| 国<br>内<br>グ<br>ル<br>ー<br>プ<br>会<br>社           | 株式会社エンプラス 研究所         | 自己宣言  |
|  | 株式会社エンプラス ディスプレイ デバイス |   |
|  | 株式会社エンプラス 半導体機器       |   |
|  | QMS株式会社               |   |



# 連結財務の状況

## ■連結貸借対照表の概要

(単位：百万円)

| 科 目         | 前期末<br>2019年3月31日 | 当第2四半期末<br>2019年9月30日 |
|-------------|-------------------|-----------------------|
| 流動資産        | 36,818            | 36,425                |
| 固定資産        | 19,837            | 19,722                |
| 有形固定資産      | 13,164            | 13,828                |
| 無形固定資産      | 2,260             | 1,976                 |
| 投資その他の資産    | 4,413             | 3,917                 |
| 資産合計        | 56,656            | 56,147                |
| 負債          | 5,049             | 4,795                 |
| 流動負債        | 3,923             | 3,702                 |
| 固定負債        | 1,125             | 1,092                 |
| 純資産         | 51,606            | 51,352                |
| 株主資本        | 50,516            | 50,651                |
| その他の包括利益累計額 | 696               | 51                    |
| 新株予約権       | 262               | 312                   |
| 非支配株主持分     | 132               | 336                   |
| 負債・純資産合計    | 56,656            | 56,147                |

## ■連結損益計算書の概要

(単位：百万円)

| 科 目              | 前第2四半期<br>2018年4月1日<br>～2018年9月30日 | 当第2四半期<br>2019年4月1日<br>～2019年9月30日 |
|------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| 売上高              | 16,207                             | 16,203                             |
| 売上原価             | 9,098                              | 9,259                              |
| 売上総利益            | 7,108                              | 6,943                              |
| 販売費及び一般管理費       | 5,762                              | 5,577                              |
| 営業利益             | 1,345                              | 1,365                              |
| 営業外収益            | 510                                | 239                                |
| 営業外費用            | 157                                | 233                                |
| 経常利益             | 1,699                              | 1,371                              |
| 特別利益             | 5                                  | 415                                |
| 特別損失             | 73                                 | 13                                 |
| 税金等調整前四半期純利益     | 1,631                              | 1,772                              |
| 法人税等             | 577                                | 304                                |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 24                                 | 35                                 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 1,029                              | 1,432                              |

## ■連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：百万円)

| 科 目              | 前第2四半期<br>2018年4月1日<br>～2018年9月30日 | 当第2四半期<br>2019年4月1日<br>～2019年9月30日 |
|------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 2,261                              | 1,430                              |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △1,613                             | △589                               |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △533                               | △1,458                             |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 466                                | △351                               |
| 期末残高             | 25,109                             | 24,111                             |

### 連結貸借対照表のPOINT

総資産は56,147百万円となり、前連結会計年度末比508百万円の減少となりました。流動資産が392百万円減少し、固定資産につきましては115百万円減少しました。主な変動要因は投資その他の資産で495百万円、無形固定資産で284百万円減少したことによるものです。

純資産は51,352百万円となり、前連結会計年度末比254百万円の減少となりました。その結果、自己資本比率は90.3%となり、前連結会計年度末比で0.1ポイント減少しております。

### 連結損益計算書のPOINT

連結売上高は16,203百万円(前年同期比0.0%減)となり、連結営業利益は1,365百万円(前年同期比1.5%増)、連結経常利益は1,371百万円(前年同期比19.3%減)、親会社株主に帰属する連結四半期純利益は1,432百万円(前年同期比39.1%増)となりました。

### 連結キャッシュ・フロー計算書のPOINT

現金及び現金同等物は24,111百万円となり、前連結会計年度末に比べて969百万円減少しました。

最新の財務情報などは、当社のホームページをご覧ください。

<https://www.enplas.co.jp/ir/>

エンプラス IR 検索



# 会社概要 / 株式情報 / 株主メモ

(2019年9月30日現在)

## 会社概要

商号 株式会社エンプラス  
所在地 埼玉県川口市並木2丁目30番1号  
設立 1962年2月21日  
資本金 80億8,045万円

## 取締役及び執行役員

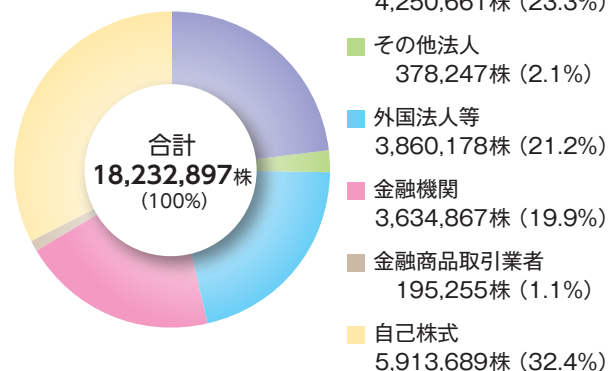
|                |        |
|----------------|--------|
| 代表取締役兼社長経営執行役員 | 横田 大輔  |
| 取締役兼経営執行役員     | 藤田 慈也  |
| 取締役兼経営執行役員     | 堀川 裕司  |
| 取締役            | 風巻 成典  |
| 取締役(監査等委員)     | 井植 敏雅  |
| 取締役(監査等委員)     | 久田 眞佐男 |
| 取締役(監査等委員)     | 長谷川 一郎 |
| 常務経営執行役員       | 島根 健夫  |
| 常務経営執行役員       | 菊地 豊   |
| 経営執行役員         | 田宮 義男  |
| 経営執行役員         | 沓沢 茂雄  |
| 経営執行役員         | 杉淵 幹太  |
| 執行役員           | 酒井 啓至  |
| 執行役員           | 當間 和幸  |
| 執行役員           | 久保田 守一 |
| 執行役員           | 宮坂 章司  |
| 執行役員           | 小倉 高志  |

(2019年9月30日現在)

## 株式情報

発行可能株式総数 62,400,000株  
発行済株式総数 18,232,897株  
株主数 4,083名

## 所有者別株式分布状況



## 株主メモ

事業年度  
定時株主総会  
株主名簿管理人

4月1日から翌年の3月31日まで  
毎年6月

東京証券代行株式会社  
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社本店及び全国各支店で行っております。

郵便物送付先、連絡先

〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

東京証券代行株式会社 事務センター(お問い合わせ先) ☎0120-49-7009

基準日  
公告方法

定時株主総会の議決権 3月31日  
電子公告 (<https://www.enplas.co.jp/>)

ただし、電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載する方法とします。

貸借対照表、損益計算書は、決算公告に代えてEDINET (<http://disclosure.edinet-fsa.go.jp/>)にて開示しております。

上場金融商品取引所

東京証券取引所 市場第一部

# グローバルネットワーク

## ■ 国内ネットワーク

### グローバル本社

東京都千代田区丸の内1丁目6番2号 新丸の内センタービルディング9F

### 本社

埼玉県川口市並木2丁目30番1号



東京都  
・グローバル本社  
・株式会社シングルセルテクノロジー



鹿沼工場

埼玉県川口市

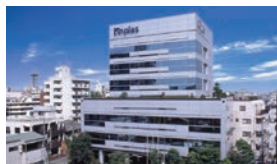
・本社  
・株式会社エンブラス ディスプレイ デバイス  
・株式会社エンブラス研究所  
・QMS株式会社  
・株式会社エンブラス半導体機器

名古屋営業所

四日市営業所

西日本営業所

九州営業所



本社  
株式会社エンブラスディスプレイデバイス



鹿沼工場



株式会社エンブラス半導体機器



QMS株式会社



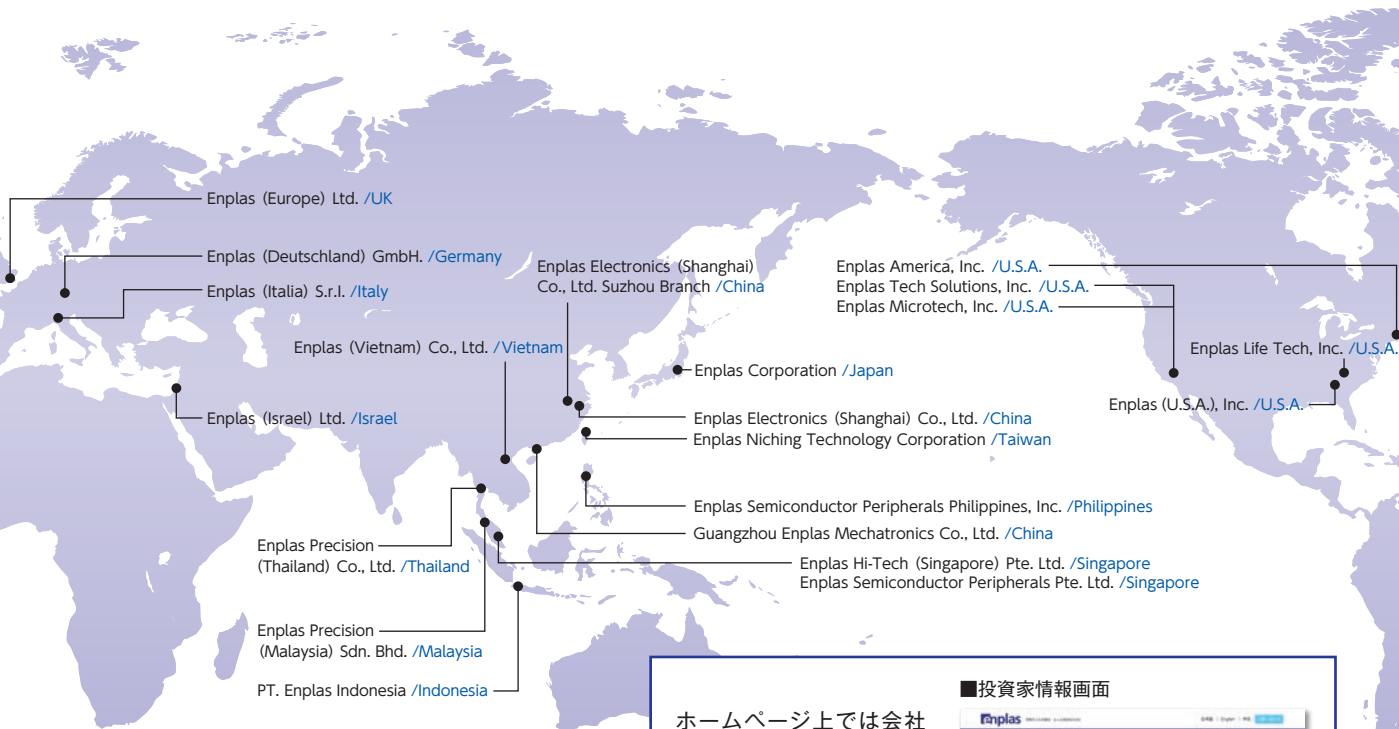
株式会社エンブラス研究所

# グローバルネットワーク

## ■ 海外ネットワーク

### 技術の絆。信頼の絆。活躍の舞台はグローバルです。

アジア、アメリカ、ヨーロッパにある世界拠点を結ぶグローバルネットワークによって24時間稼働し続ける「エンプラス」グループ。こうしたグローバルネットワークを通じて、企画・開発段階から、各産業界のトップメーカーと技術に裏打ちされた信頼のパートナーシップを構築。世界企業としてエンプラスは、さらに大きく羽ばたこうとしています。



## 株式会社エンプラス

〒332-0034 埼玉県川口市並木2丁目30番1号

Tel : 048-253-3131 (代表) Fax : 048-255-1688

<https://www.enplas.co.jp/>

UD FONT

見やすいユニバーサル  
デザインフォントを採用しています。



ホームページ上では会社概要、財務情報をはじめ業務内容やプレスリリースなど最新の情報を幅広くお知らせしています。ぜひご覧ください。

エンプラス IR

検索

### ■ 投資家情報画面

